

## 令和元(2019)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	がん特異的酵素活性の網羅的探索とこれに基づく革新的中性子捕捉療法プローブの創製
研究代表者	浦野 泰照 (東京大学・大学院薬学系研究科・教授) ※令和元(2019)年7月末現在
研究期間	令和元(2019)年度～令和5(2023)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>本研究は、化学を基盤に、新規ながん組織特異的な蛍光プローブの開発を目指すものである。特に、可視化が困難であった深部微小がんの検出に向けて、幅広い取組が計画されている。</p> <p>本研究は、これまで応募者が進めて来た研究を大きく発展させるものであり、独自性の高い医療技術の創出につながることを期待される。具体的には、蛍光プローブライブラリの構築、量子化学計算に基づく分子設計、ホウ素中性子ホウ素含有プローブの開発などが計画されており、先進的な化学を医療応用に展開する研究の先駆けとして、高い学術的意義を有している。</p>